

協働のまちづくり支援金 モデル的事業 提案書（新規事業）

団体名：空町まちづくり協議会

<b>1. モデル的事業実施の背景</b>	
まちづくりの目標・目指す姿など	
<p>空町まちづくり協議会は、地域の人口減少や高齢化を踏まえ、まち協と地域の方々との交流や関わり合いを通じて連帯感と絆をより一層深めてゆくため、まち協各委員会主催の事業や各種情報などの発信をより積極的に行い、地域住民みんなで支えあって暮らしやすいまちづくりを進める。</p>	
まちづくりの課題	
<p>現在の空町まち協の各委員会役員については、1年交代でしかも各町内からの「屋押し」によって役員の選出が行われているため、新年度の役員は所属委員会やまち協全体の予備知識や情報がゼロといえる中、年度当初の短期間に新年度事業などを計画立案しなければならないのが実情です。このような状況下では前年度の事業をそのまま踏襲する事が通例となり、新しい事業や提案、さらには組織の改革などを行うことは非常に難しいことといえます。</p> <p>そこで空町まちづくり協議会では、「企画・支援チーム」（仮称）を事務局内に設置し、各事業及び各委員会会議への出席を通じ、さらにチーム内での検討会を踏まえて各委員会やまち協本部に対し新規事業の提案や事業企画の支援、課題の提起、既存事業の改革などを提起することを目指します。</p> <p>また、人口の減少や高齢化によって地域内の町内会の維持や役員の選出が難しくなっており、このチームとまち協本部を主体に町内会とまち協の組織の改革を進めることが喫緊の課題です。端的に言えば、町内会やまち協の役員数削減や役員の専従化、組織のスリム化などが早急に解決すべき重要な課題といえます。このチームではまち協本部と協議のうえ、その方策を検討、考察して、平成33年度には新しいまち協の姿を提示したいと思います。</p>	
<b>2. モデル的事業の内容</b>	
事業名	『企画・支援チーム』設置事業
対象、方法など	<p>対 象 空町まち協各委員会及び本部                  （社教委員会、体育委員会、女性委員会、青少年育成委員会、地域福祉委員会、高年者委員会、お助け隊運営委員会、地域自治部会）</p> <p>期 間 平成30年度 準備期間と初期の提言                  平成31年度～ 本格的な活動（提案、支援、改革）                  （3年間）※平成33年度には、組織改革の提言を行う</p> <p>方 法 平成30年10月までにスタッフ募集を行い、チームを発足させる。                  【人 員】4名予定（チームリーダー1名、スタッフ2名、事務局）                  【内 容】各行事、委員会会議への出席をすることにより問題点や改善点を洗い出し、月1回～2回の意見交換会を開催した上で、年度末に提言をまとめる。                  【募集方法】地域内から人材の募集を行う                  ①まち協だより、②チラシ（全戸配布）、③推薦など</p>
先駆的、効果的な内容	<p>「企画・支援チーム」（仮称）を事務局内に設置することで、まちづくり協議会の目指す目標や目指す姿を共有し、統一した見解を持って各委員会やまち協本部に対し新規事業の提案や事業企画の支援、課題の提起、既存事業の改革などを提起することができるようになる。</p>

### 3. モデル的事業の効果の見込み

『屋押し』による役員選出の問題を改善するため、企画・支援チームからの様々な提言や支援によって各委員会での活発な議論を促し、新規事業の立ち上げや既存事業の改善を推進しさらには町内会とまち協の相互的な組織改革を行い、人口減少と高齢化に対応できる組織とする。これにより、まち協活動の停滞、マンネリ化を防ぎ、委員会を大幅に活性化させることができ、最終的にはまち協活動全体の活性化につながる。

この問題は、高山市内のまち協全体での共通課題でもあり、今回の事業である程度の効果が認められれば、他のまち協のモデルケースになりえる。